

# 山田みやこの活動報告

令和7年11月16日（日）

## とちの環県民会議 講演会に参加

「断熱ハウスで健康・快適・省エネ・エコ」 宇都宮市中央市民活動センターにて開催

住宅の断熱・気密性向上によるヒートテック対策として、また、夏涼しく、冬暖かくすることで、健康・快適な生活かつ省エネへの転換が期待されている。

断熱ハウスの利点や実施例、機能評価を説明

講師 一社) Forward to 1985 energy life 理事 吉田登志幸さん

「小さなエネルギーで豊かに暮らそう」

夏と冬でこんなに違う

浴室温度の違いによって入浴時の血圧の変化がヒートショックの原因となる

高断熱住宅では、入浴時の心臓への負担、起床時の心臓への負担が軽減される

また、暖かい特養施設で要介護度が維持される結果が出ている

外気温度0°Cで低い断熱住宅 室温20°C 体感温度15.4°C

高い断熱住宅 室温20°C 体感温度19°C

快適さは体感温度で決まる!!

昨年夏、鳥取県の健康省エネ住宅「NE-ST」を会派にて視察。

先駆的取り組みとして国基準より高い「NE-ST」を作り、県民の健康・快適生活を提供していることを改めて確認した。

本県も長期優良住宅の一つとして掲げている高断熱・高気密住宅をさらに進歩させた基準作りをすべき。

ヒートショック増加率No.1の本県だからこそ。